

世界の人びとのためのJICA基金・業務完了報告書

作成日 2010年5月7日 作成者 石原輝

1. 業務の概要

- (1) 事業名 貧困に苦しむ子供たちへの中等教育奨学金支援事業
- (2) 実施団体名 特定非営利活動法人 アマニ・ヤ・アフリカ
- (3) 実施期間 平成21年10月19日～平成22年5月7日
- (4) 実施国 ケニア
- (5) 活動地域 ケニア ナイロビ市 キベラ地区
- (6) 活動概要 以下の通り

①活動の背景：

当団体は団体設立当初からケニアのナイロビにあるキベラ地区内の小学校(マゴソスクール)や、孤児院に通う子供たちに学費や教材費、食費などの支援活動を続けており、今後もそれを継続して続けていきたいと考えている。

今まで支援してきた子ども達が成長して、現在金銭的に負担のかかる中等教育機関への進学を控えているが、この子供たちは極度の貧困に苦しむ子供が多く、家族がお金を払ってセカンダリースクール(中等教育機関)へ進学させることは非常に困難である。私たちはその子供達が少しでも先の教育機関へ進学し、教育を受けることでケニア国内の経済や教育状況が変化していくことを望んでいる。

そのような経済的に苦しい状況の子ども達の中から、マゴソスクール運営者や支援者から紹介を受けてアマニ・ヤ・アフリカスタッフが子供達の面接、家庭訪問をして支援児童を決定し、セカンダリースクールの授業料、寮費(全寮制)、制服代や教材費、帰省時の交通費などの支援をしたいと考えている。

②活動の目標：

孤児やストリートチルドレンを受入れているマゴソスクール(小学校)の卒業後にセカンダリースクールへ進学を希望しても経済的事情により進学を断念せざるを得ない有能な生徒へ奨学金を支給すると共に、この奨学金受給者がマゴソスクールの後輩たちをケアし、成果を還元していくシステムを作ることを目標とする。

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容

【実施内容① 支援者の決定から入学まで】

①2009年10月20日 第1回ミーティング（事業開始）

場所：マゴソスクール 10：00～

奨学金支援予定金額（317,330 円）、予定人数（5名）をマゴソスクール（以下マゴソ）スタッフに伝え、今後の予定をスタッフと確認。

卒業生は全員、2009年11月14・15日に行われるケニア全国統一試験、KCPEを受験する。

KCPEとは、Kenya certificate of primary education の略。

5教科・英語・スワヒリ語・理科・社会・数学の500点満点

試験結果は12月27日に出る予定で、この試験の結果で進学可否・進学先が決まる。

②2009年11月15日・25日 第2回・第3回ミーティング（支援生徒の選択）

場所：マゴソスクール 10：00～

KCPEを受験したマゴソ卒業生の中で、セカンダリースクール進学の為の学費・生活費等の支援が必要な生徒のリストアップ。

KCPE受験者19名の中から、生徒とその保護者の面接を行い、5名を選抜。

5名の名前、性別は以下の通り。

A エリック・オチエン（男）

B ラベンダー・アウマ（女）

C ウィンフレッド・アチエン（女）

D ワナイディ・マテラ（女）

E クリスティーン・アジャンボ（女）

③2009年11月28日 マゴソスクール卒業パーティー出席

場所 ミリティーニ村 ジュンバ・ラ・ワトト 14：00～

モンバサ近郊の村、ミリティーニ村で、アマニ・ヤ・アフリカが以前から関わっている孤児たちの家で行われた卒業式（兼卒業パーティー）に出席。

卒業パーティーは、マゴソスクールと関係の深いモンバサの孤児たちの家、「ジュンバ・ラ・ワトト」で行われた。このジュンバ・ラ・ワトトで生活する子供達は、もともとキベラで生活しマゴソスクールに通っていたが、あまりにも家庭状況が悪いのでここへ移住させた子供たちである。

村の人達の協力で食事が用意され、近くの小学校の子供達と一緒に歌や踊りで非常に盛り上がった。マゴソスクールのスタッフ、卒業生も感謝の言葉を述べて終了。

アマニスタッフはモンバサのホテルに宿泊して翌日（11月29日）ナイロビへ。

④2009年12月6日 第4回ミーティング
(前年度卒業生と本年度卒業生のミーティング)

場所：マゴソスクール 14:00～

昨年(前年度)のマゴソの卒業生たちが学年末休みで帰省している為、その卒業生からセカンダリースクールの生活状況の報告を受ける。

昨年のKCPEの成績が250点未満(500点満点)で進学した生徒に関しては、セカンダリースクールでの勉強について行けず、ドロップアウトしかけている子供もいた。

このミーティング後にマゴソスタッフと話し合い、その結果、本年度からはKCPEの結果が250点未満の子供については、無理に学校を探して進学させず、もう1度小学校8年生をやり直し、基礎学力を付けてからセカンダリースクールに入学させた方がよいのではないかという事となる。

⑤2010年1月20日 第5回ミーティング(KCPE後、支援予定生徒との面接など)

場所：マゴソスクール 11:00～

昨年末のKCPEの結果発表後初のミーティング。

第2回、3回ミーティングで選抜した候補者5名のうち、2名(②参照 Dワナイディ・マテラ と Eクリスティーン・アジャンボ)のKCPEの試験結果が悪く(200点前後)、マゴソスタッフや本人、保護者を交えた協議の結果、今年度の進学を諦めて小学校8年生をやり直し、この2名は来年もう一度KCPEを受験する事に決定。

残りの3名は、予定通り入学準備金・学費・生活費・帰省の際のバス代などの全額支援を行うが、上記で本年度は進学をしない事に決まった2名枠について、これから全額を支援する対象者を選抜するよりも、他の生徒5名の学費のみ支援に切り替えてはどうかとの意見が出る。

⑥2010年1月26日 第6回ミーティング

(支援金の支払い・学費のみ支援生徒5名の選択)

場所：マゴソスクール 10:00～

試験結果の良かった全額支援候補の3名の生徒と保護者を交えて支援の契約を行う。進学先は3名ともKAANILIONS SECONDARY SCHOOL(カアニ ライオンズ セカンダリースクール)。

支援金はマゴソスタッフに渡し、3名分の準備物購入、学費納入をお願いした。

(できるだけ支援者個人への現金の受け渡しを避ける事と、物品購入を予定通りの金額でスムーズに進めるため)3名分合計 186,498円

その後、残りの2名枠についてマゴソスタッフと話し合い、前回のミーティングで協議した通り、残金124,337円を、他の5名分の学費のみ支援に変更する事をミーティングで決定し、アマニからJICAに相談する事となる。

入学の日にちが迫っている事もあり、そのまま5名の生徒と保護者の面接を行う。(3

名は新入学生、1名は新2年生、1名は新3年生の計5名)

5名の支援金内訳と、支援方法変更は以下の通り。

JICAからの助成総額 317,330円・・・①(平成21年度、22年度合計)

アマニ・ヤ・アフリカの活動経費(交通費) 6,500円・・・②

生徒への支援枠=①-②=310,830円・・・③

助成金申請時の支援予定・・・62,116円×5名=310,830円・・・④

この④の予定を以下のとおり変更する

当初の予定通り行う3名の全額支援経費 62,166円×3名=186,498円・・・⑤

④-⑤の残金 124,332円を5名の生徒の学費のみ支援に切り替える。

5名の生徒の名前・学費内訳は以下の通り。

A エリック・キサ 27,465円
(KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生)

B エバリン・ムンブア 27,465円
(KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生)

C ジャックリン・アチエン 27,465円
(KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生)

D ナオミ・アウオ 19,665円
(KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新2年生)

E プリジット キビシャ 22,272円
(KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新3年生)

合計 124,332円

(注)

上記Dのナオミ・アウオ分の学費は19,665円では足りなかったが、差額は保護者が出すことで合意。

その後、JICAより、上記の支援方法変更に関して了解をもらったので、上記の生徒5名に対し、上記の金額を支援する事に決定。

2月1日、上記5名分の学費をマゴソスタッフに渡し、納入をお願いする。

この結果、この「世界の人々のためのJICA基金」で支援する生徒は、生活費等の全額を支援する生徒3名+学費のみを支援する生徒5名の合計8名となった。

決定支援者名と学校名(最終)

①Erick Ochieng エリック・オチエン(男)

KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生

②Lavendar Auma ラベンダー・アウマ(女)

- KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生
③Winfred Achieng ウィンフレッド・アチエン (女)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生
④Derick Kisa エリック・キサ (男)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生
⑤Everlyne Mumbua エバリン・ムンブア (女)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生
⑥Jackline Achieng ジャックリン・アチエン (女)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新入学生
⑦Naomy Auwor ナオミ・アウオ (女)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新2年生
⑧Brigit Kivisha ブリジット キビシャ (女)
KAANI LIONS SECONDARY SCHOOL 新3年生

⑦2010年2月5日 支援生徒が学校へ出発見送り
支援生徒が各家庭からセカンダリースクールへ出発。
全ての子供たちがセカンダリースクールに無事入学と進級。

以上

【実施内容② 高校入学後のカウンセリング】

●2月26日 セカンダリースクールの中休み時に奨学金受給生徒へのカウンセリング。

ケニアの学校の1学期は1月から始まるが、新入学生は2月から始まる。その為、中間休みまでは20日余りと短い。帰省した生徒も帰省できなかった生徒もいるが、帰省できた生徒とのミーティングを行った。

入学してまだ1カ月経っていないと言う事もあり、新1年生は皆学校になれる事で精一杯の様子。

今までのスラム生活とは生活環境が一変し、寄宿舍での共同生活はどうかという質問には、ほとんどの子供達が楽しいと答えた。今まで日々の食事の心配や家事の手伝いをしながら、電気や勉強部屋なども無い環境で生活して来た子供たちにとって、まずは寄宿舍で3食食べられる事が精神状態を安定させている様子。

●4月7日 セカンダリースクール1学期終了後のカウンセリング。

3月末で1学期を終え、生徒達は各家庭に帰省したため、支援生徒を集めてカウンセリングやミーティングを行った。

支援生徒が学期末の成績表を持参。全員が入学時に期待していたよりも成績が向上している。入学時より成績が下がった生徒は無。

2年生、3年生の生徒に関しては、成績は横ばいだが、特に問題は見られなかった。この結果に非常に驚いたが、生徒に聞いてみると、やはりスラム生活からの生活環境の変化が大きいと言う。

前回のミーティングでもわかった事だが、毎日3食きちんと食べられる事と、勉強できる環境がある事は非常に重要だと実感させられた。全員クラブ活動にも積極的に参加しており、現在の所、支援生徒に問題は無かった。

しかし、これから授業内容は日を追って難しくなるので努力が必要だと生徒を促し、来年度のマゴソスクールの卒業生へのアドバイスを行ってほしいと伝えた。

支援生徒達は、後輩の面倒を見る事ができる事に誇りを感じている様子で、この学期末休み中に来年度の卒業生のお世話をすることを約束。

生徒達は約1ヵ月間を実家で過ごし、5月5日に学校へ戻る予定。2学期の開始は5月6日から。

●5月5日 支援生徒全員が新学期の為に各高校へと出発。

この日、支援生徒全員が無事に各高校へと出発。

全員が出発できた事を見届けて、今回の「貧困に苦しむ子供たちへの中等教育奨学金支援事業」を終了とした。

今後も支援生徒へのカウンセリングは続けていく予定。

以上

2) 実施成果：

①支援者の決定から入学まで

当初（申請時）の予定では、マゴソ卒業生5名の生活費、帰省日、文房具代、ユニフォーム代等の全てを支援する予定でいたが、昨年度の卒業生とのミーティングの結果、今年は全国統一試験(KCPE)の結果を見て、成績の良くない250点未満の子には、無理に進学させず、基礎学力を整えてもう一度チャレンジさせる事になった事が一番大きかった成果である。

スラム内で、設備の乏しい小学校で勉強した子供たちは、基礎学力が他の生徒達より劣る。「基礎学力が低いままで高校へ進学→その後に勉強について行けずにドロップアウト」という流れはケニアでは非常に多い。

勉強の苦手な子には他の道もあり得るし、きちんと基礎学力を付けてから進学した者は入学後も成績が上がっていく事を昨年度の卒業生とのミーティングを重ねるうち感じた為、急ぎよ KCPE での進学支援ラインを250点と決める事にした。ケニアでは、進学時の1年の遅れ等はあまり気にされず、進学時の子供の年齢も日本に比べてバ

ラバウであることが多い。KCP E250 点未満の子供達がもう一度小学校 8 年生をやり直す事は、今後のハンデとはならないと判断した。

それによって、当初 5 名の支援だった人数が、学費のみ支援する生徒を含めて 8 名に増えた。これについては支援の幅が広がったと言う事で、当団体内では評価している。

②高校入学後のカウンセリング

高校入学後、帰省するたびに生徒たちと話し合いの場を持ち、カウンセリングを行った。①でも述べたが、今回は基礎学力があると判断した生徒達のための支援となった事で、入学後の成績は満足できるものであり、その事から生徒個人のストレスも少なく、学校生活を楽しめている事が良くわかった。

また、支援した 8 名の生徒全員が、来年度の卒業生達へ自分の経験やセカンドリースクールの様子などを話し、熱心にお世話をしている事が何よりの成果である。

このように、卒業した生徒でグループを作って後輩の面倒を見ていくシステムは、スラムでは親や兄弟が学校へ行っていないと言う子供が多い為、家族からアドバイスを受ける事ができない過酷な環境に住む子供たちにとって、何よりの手助けとなる。

また、支援対象となった子は、孤児や、親のいない子がほとんどだったため、このマゴソスクールが、自分の帰る事ができる家のような暖かい場所になりえると思う。

(3) 得られた教訓など：

今回のこの事業を通して、スラムに生まれ、そこに住むと言う事は、想像を絶する程、子供たちの心を押さえつけているのだと言う事を改めて感じた。

支援者を決める段階の面接でも、上手に自分を表現できず、おどおどした感じをほとんどの生徒から受けたが、学校の寮生活という、住む場所や食生活が安定した後は子供たちの表情にもゆとりが見られるようになった。

もうひとつは、ただむやみに急いで進学チャンスを与えるのではなく、基礎学力をつけた後に進学させる事が大事だと言う事がわかった。

日本と違い、小学生の年齢が一定していないケニアでは、1 年の遅れなどは大きな問題ではない。今、きちんと学力をつけさせる事が非常に大事だと思った。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

この事業は 5 月 7 日で終了したが、2 学期末、学年末にも同じような方法でカウンセリングを行う予定でいる。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

この事業の活動中、マゴソスクールに何度も足を運ぶ事になったが、その中で子供達やスタッフとの連携が非常によくなったと思う。その事で今後の活動がものすごくやりやすくなった。

これまで何度も足を運んできた地域だが、やはりスラムの中の世界は我々には到底理解できないかもしれない闇と、生きるための苦しみが渦巻いている所だと改めて感じた。

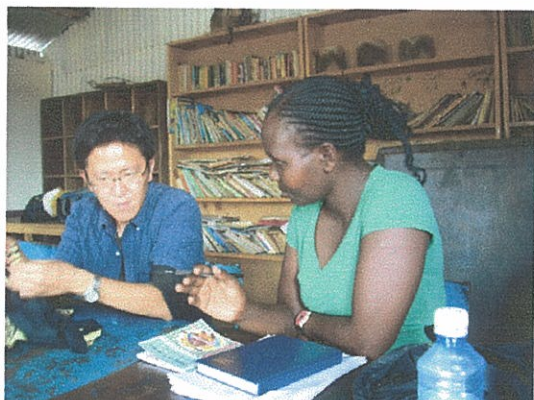
子供達が気持を押し殺し、不衛生な環境の中で満足に食べる事の出来ない状況から、高校へ進学して寮生活を始め、きちんとご飯を食べる事ができるようになると、表情や考え方まで明るくなる。

今まではスラムの6畳ほどの長屋に5名～6名ほどで生活していたため、勉強部屋などあるはずもない。電気もない。近所では犯罪が頻繁に起こり、隣に住む人は犯罪者と言う事も珍しい事ではない。親や保護者には仕事がなく、日々のストレスから暴力や虐待を起こす人も後を絶たない。

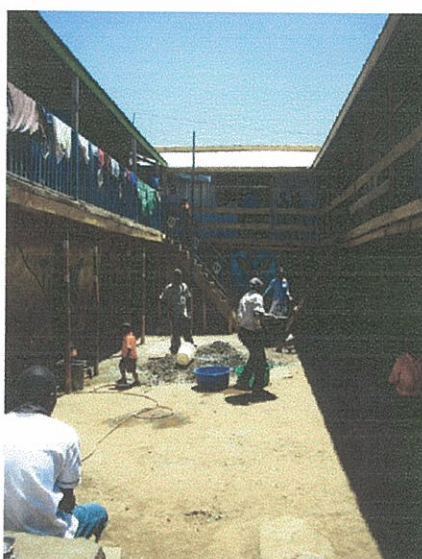
そんな子供達が勉強できる環境を与えられ、楽しそうに学校へ通っている姿は本当に微笑ましい。そして、親のいない子供達が、子供達同士で手を取り合い、助け合う姿を見ていると、私たちが今まで生きてきた環境がどれほど恵まれていたかを感じ、それを少しでも子供達に分けてあげたいと思う。

私たちの活動では限界があるかもしれないが、この国の子供達にできるだけチャンスを与えたいと思っている。

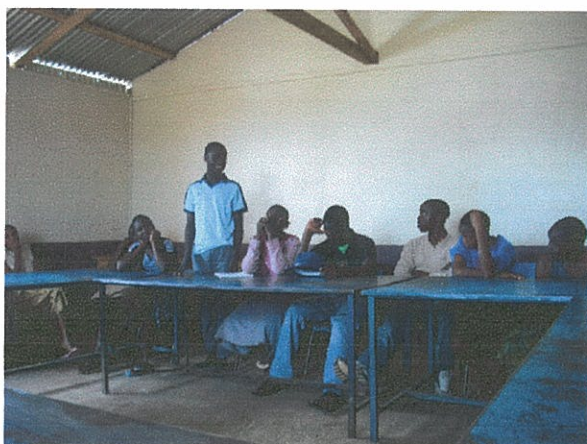
(2) 活動の写真



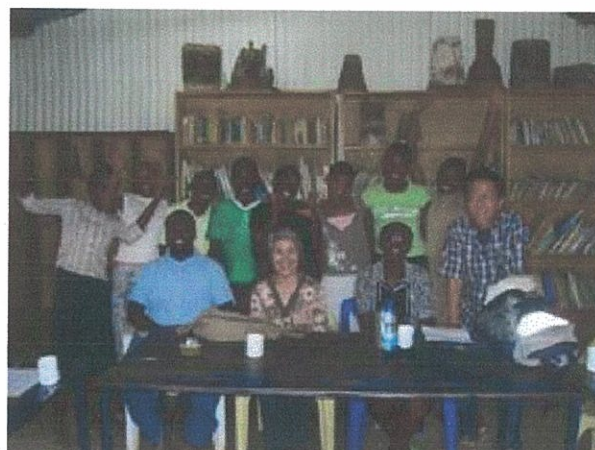
マゴソスクールスタッフとミーティングをするアマニスタッフ。支援生徒の決定を行っている。
2009年11月25日



マゴソスクールの全体像。最近増設して全てが2階建てとなった。
2009年10月25日



1学期末に行われた支援生徒とのミーティング風景。
2010年4月7日



支援者決定後、支援生徒全員（後列）とマゴソスタッフ・アマニスタッフ（前列）
2010年1月26日

以上